

春日井サボテンサミット(2018.3.5-6)

「春日井サボテン」に関する研究や取り組みを発信するイベントです。

私も副実行委員長として運営に参加致しました。

当日は、春日井商工会議所が中心となり発足した春日井サボテンプロジェクトの10年間の取り組みの報告、私の講演、地元事業者や行政担当者などパネラーとしてサボテン産業の今後について語り合うパネルディスカッションなどを開催。

次回は2年後をめどに中部大学で開催いたします！

春日井 サボテンサミット

～ 春日井サボテン next10 キックオフイベント ～

日時 平成30年 3月5日(月)・6日(火)

場所 春日井商工会議所

1日目 シンポジウム 14:00～18:00(受付開始 13:30)

報告「春日井サボテンプロジェクト10年の取り組み」

講演「食生活における春日井サボテンの効能」

講師：名城大学農学部 教授 小原 章裕 氏

講演「春日井サボテン産業の課題と今後の取り組み」

講師：中部大学応用生物学部 助教 堀部 貴紀 氏

パネルディスカッション

テーマ「春日井サボテン産業のこれから」

2日目 サボテン見学ツアー 9:00～13:20(出発 9:00)

※シンポジウム終了後懇親会を予定しております。
懇親会及びサボテン見学ツアーに参加される場合は飲食代が必要です。
(定員)シンポジウム100名、懇親会30名、見学ツアー25名(先着順)

サボテン・多肉植物の展示・販売、サボテン関連商品販売、パネル展示を行います。

主催 春日井サボテンサミット実行委員会

共催 中部大学(応用生物学部)、(一社)春日井市観光コンベンション協会、春日井商工会議所

↓120名以上の方に参加頂きました！





私の研究紹介、植物工場見学会も開催



サボテン料理を堪能する懇親会



サボテンの将来考える

きょうまで春日井でサミット



サボテン産業を発展させるために議論を交わす出演者たち＝春日井市の春日井商工会議所で

紀助教やサボテン農家、市職員ら五人がそれぞれ立場から話し合った。「少し高くて手にと取ってもらえるような付加価値の高い商品をつくるべきではないか」「新たなことより、既存のイベントにもっと参加することが現実的」など、さまざまな観点からサボテンの未来を探った。

春日井市の特産品、サボテンを語る「春日井サボテンサミット」(中日新聞社後援)が五日、市内の春日井商工会議所で始まった。六日まで。商議所内の春日井サボテンプロジェクトのメンバーらでつくる実行委員会が主催した。今後十年の取り組みを考えるパネルディスカッションでは、サボテンを研究する中部大応用生物学部の堀部貴

堀部助教は「この十年で、サボテンを少しだけ有名にできたが、強い産業にはなりきれないのが課題。より連携が必要になる」と指摘した。議論を聴いた来場者

の一人で、サボテンの「サボテンを有名にし、栽培や活用を学ぶ中部てほしい」と話していた。全国的に春日井を。 (丸山耀平)

高齢者の見守りへ協定

春日井市 中日本高速のセンターと



協定を締結した伊藤市長(手前右から2人目)と中日本高速道路の関係者＝春日井市役所で(市提供)

春日井市は五日、中日本高速道路名古屋支社を通る高速道路を管理する名古屋(名古屋市中東区)と多治見(岐阜県多治見市)、羽島(同県羽島市)の三保す。

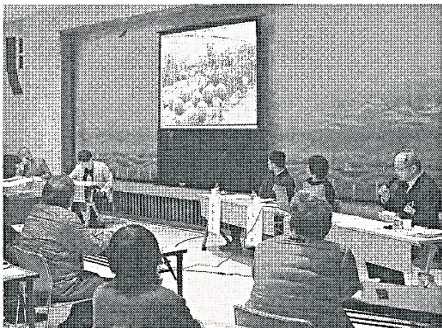
既に新聞販賣所、融機関など三工業者や業界団体と書をお願ひしました。

中日新聞(近郊版) 2018年3月6日

春日井市の特産品「春日井サボテン」を活用した地域ブランド事業を強化するため、同市や春日井商工会議所、中部大学などが5日、同市鳥居松町の同会議所で「春日井サボテンサミット」(中部経済新聞社など後援)を開いた。市内の生産、加工・販売業者ら約120人が出席。サボテンの事業化などで意見を交わした。(春日井)

同市は食用の実生(みしよ)のサボテンで、全国トップレベルの生産量を誇る。1999年度から市内の事業者がサボテンを使った商品の開発・販売などを開始。2006年7月から「春日井サボテンプロジェクト」を立ち上げた。08年度からは市の補助金を

春日井でサボテンサミット開催

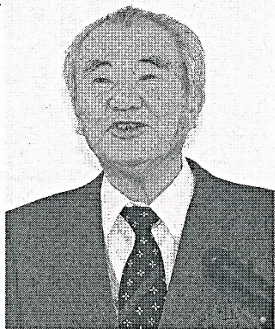


関係者が出席して今後の取り組みについて意見を交わした

地域ブランド事業強化へ

サボテンの研究内容を発信 効能など

受けて食品や化粧品、雑貨などの商品開発や「サボテンの取組み方などの情報を発信」を全国に広げるなど、信。改めて市民の関心を喚起ブランド構築を進めている。サミットでは同サボテンの



あいさつする松屋会長

会場では、名城大学農学部教授の小原章裕氏と中部大学応用生物学部助教の堀部貴紀氏が講演。その後、行われたパネルディスカッションでは

また、伊藤市長は「10年間の取組みにより『春日井はサボテンのまち』というブランドが全国に認識されている。サミットを先に進める機会にしてほしい」と話した。